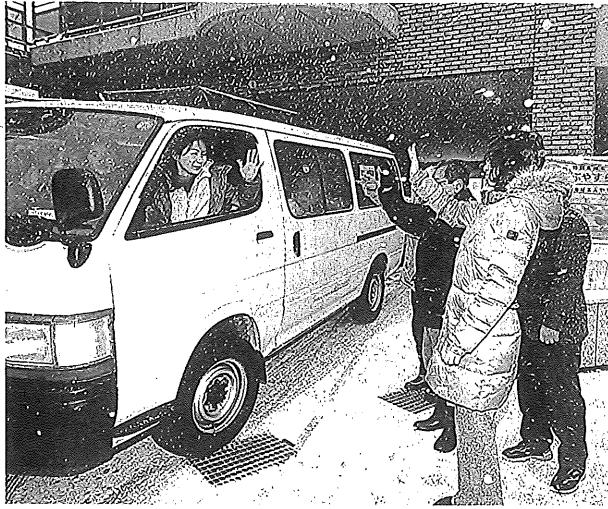


福祉施設 善意つなぐ

金沢を中継 仙台へ物資

東日本 大震災

東日本大震災で被災した老人ホームに救援物資を届けるため、全



雪が降る中、施設職員らに見送られ出発する支援物資運搬隊。金沢市弥生で

国の高齢者福祉施設でつくる「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」（京都市）が、大阪から加盟施設を經由して仙台へ物資を運ぶリレーを進めている。十七日朝には金沢市を出発、一刻も早い現地入りを目指して車を走らせている。

連絡会には仙台市の老人ホームも加盟し、事務局に食料や介護用品の不足を訴えているという。流通の混乱で被災地に物資を直接届ける方法がないため、加盟施設が多い関西から日本海側の各地を中継するリレー方式で届けることにした。非常食や紙おむつなどを積んだ車二台が十六日に大阪市内を出発し、同日午後には金沢市の特別養護老人ホーム「なんぶやすらぎホーム」に到着。同ホームが用意したワゴン車とトラックに積み替えて

金沢で募った物資を補充、運転手も交代して十七日朝、次の中継地の新潟市へ向かった。救援物資は新潟を経由して、十七日中に山形市の最終中継地まで到着する予定。なんぶやすらぎホーム施設長の坂口朋美さんは「仙台のホームは一般の人でも避けてきており、特に食へ物が足りていないらしい。少しでも早く

現地に届きたい」と話している。関西から仙台へのリレーは十九、二十日にも出発する予定。事務局には福島県内の加盟施設からも支援要請が入り、物資を届ける方法を検討していると

（佐藤航）